

演題番号: P2-2

筆頭名: 渡邊直人

筆頭所属名: 東京アレルギー疾患研究所 部門はありません

共著者名:

○渡邊直人 1)2)、曾 振武 2)、五十子将史 2)、牧野荘平 1)

共著者所属:

東京アレルギー疾患研究所 1)、免疫療法研究所東京 2)

演題名: アレルギー疾患治療としての自己 NK 細胞免疫療法の可能性

目的) 我々はすでに生体内にある自然免疫の 1 つで、免疫機能として重要な役割を担っている NK (natural killer) 細胞の培養増殖に成功した。今回は、生体内の NK 細胞を外部より増やすことで免疫機構の Th1-Th2 バランスにどのように影響するかを確認し、さらに先に報告したアトピー性皮膚炎患者の病態に注目し自己 NK 細胞免疫療法の有効性を検討した。方法/結果) 健常人 1 名 (共同研究者) を対象として、自己血より NK 細胞を 2 週間で培養増殖させ、その後再び体内に注射 (点滴静注) した。NK 細胞注射前と注射後 2 日、4 日、6 日、8 日目に採血し免疫系細胞群比率の変化を確認したところ、6 日目に NK 細胞と CD8 リンパ球がピークに達し、Th1 免疫方向に働いた。そこで、さらに内服治療されていない中等症のアトピー性皮膚炎患者 1 例 (35 歳男性) に同意を得た後自己 NK 細胞免疫療法を 2 クール (2 週間を 1 クール) 試みた結果、自己 NK 細胞注射前の病態では CD4 リンパ球より B 細胞比率の方が高かったが、注射 2 クール後には改善した。考察) 今後の症例数追加による検討を要するが、NK 細胞は生体内で Th1 優位に導くことが考えられ、自己 NK 細胞免疫療法はアトピー性皮膚炎をはじめ、Th2 優位のアレルギー・免疫疾患に対する有用な治療選択の 1 つになることが期待できる。